

平成19年度 決算報告書

国立大学法人筑波技術大学

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差 額 (決算 - 予算)	備 考
収入				
運営費交付金	2,622	2,622	0	
施設整備費補助金	0	22	22	(注1)
船舶建造費補助金	0	0	0	
補助金等収入	0	25	25	(注2)
国立大学財務・経営センタ －施設費交付金	15	15	0	
自己収入	272	277	5	
授業料、入学料及び検定 料収入	129	122	7	(注3)
附属病院収入	105	103	2	(注4)
財産処分収入	0	0	0	
雑収入	38	52	14	(注5)
産学連携等研究収入及び寄 附金収入等	53	49	4	(注6)
引当金取崩	0	0	0	
長期借入金	0	0	0	
貸付回収金	0	0	0	
承継剰余金	0	0	0	
旧法人承継積立金	0	0	0	
目的積立金取崩	0	0	0	
計	2,962	3,010	48	
支出				
業務費	2,181	2,147	34	(注7)
教育研究経費	2,085	2,065	20	
診療経費	96	82	14	
一般管理費	704	669	35	(注7)
施設整備費	15	37	22	(注8)
船舶建造費	0	0	0	
補助金等	0	25	25	(注9)
産学連携等研究経費及び寄 附金事業費等	53	58	5	(注10)
貸付金	0	0	0	
長期借入金償還金	9	9	0	
国立大学財務・経営センタ －施設費納付金	0	0	0	
計	2,962	2,945	17	
収入 - 支出	0	65	65	

#### 予算と決算の差異について

- (注1) 施設整備費補助金については、前年度の事業が当年度へ繰り越されたため、予算額に比して決算額が22百万円多額となっています。
- (注2) 補助金等収入については、予算段階では予定していなかった国からの補助金の獲得に努めたため、予算額に比して決算額が25百万円多額となっています。
- (注3) 授業料、入学料及び検定料収入については、主として再チャレンジ支援経費による授業料免除枠が拡大したこと、出願者が予定より少なかったこと等により、予算額に比して決算額が7百万円少額となっています。
- (注4) 附属病院収入については、主として患者数が減少したこと等により、予算額に比して決算額が2百万円少額となっています。
- (注5) 雑収入については、主として予定していなかった科学研究費補助金の間接経費が措置されたこと等により、予算額に比して決算額が14百万円多額となっています。
- (注6) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、予算段階では予定していなかった国からの受託事業を獲得したが、受託(共同)研究及び寄附金の獲得が予定より減少したため、予算額に比して決算額が4百万円少額となっています。
- (注7) 業務費及び一般管理費については、教育研究経費、診療経費、一般管理費において経費の節減に努めたため、予算額に比して決算額が69百万円少額となっています。
- (注8) 施設整備費については、(注1)に示した理由により、予算額に比して決算額が22百万円多額となっています。
- (注9) 補助金等については、(注2)に示した理由により、予算額に比して決算額が25百万円多額となっています。
- (注10) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、(注6)に示した理由により4百万円減少したが、予算段階では予定していなかった前年度以前における産学連携等研究収入及び寄附金収入等の繰越額のうち9百万円を支出したため、予算額に比して決算額が5百万円多額となっています。